

「Only 28 lights」

LED 照明の特性、省電力長寿命、色の自由度やコンピューターとの親和性の高さなどは、日本のように社会的なインフラの整った国では、主に経済効率の良さとして注目されています。しかしひとたび、劇場等の設備があまり整っていない地域に目をやると、その利点は経済的なことのみならず、表現の可能性の飛躍的な拡大であることが見えてきます。これまで劇場のような場所／組織にとっては、まずその基本設備を整えることが最初の難関であり、そして仮に建築的なレベルで建物が出来たとしても、それを維持し活用し続けていくには、人的にも経済的にもいろいろな困難が伴うものでした。しかしLED の特性は、アートセンターや劇場スペースの照明部分において、それらの負担を一気に軽減してくれる可能性があります。もちろん、LED で可能な表現は、これまで劇場で使用されてきた通常照明の完全な代用にはなりません。しかしそこには、これまでとは別の新しい舞台照明の方向が見えているということも出来ます。LED 照明は、昨日までは使われていなかった倉庫や、古びたビルのフロアーを、電力確保や調光器などの設備投資なしに、デジタル・ライティングを使ったパフォーマンス・アートの拠点に変えてしまえる力を持っています。

この「Refined Colors」は、更新を続けるダンス作品であると同時に、極小の機材で何処まで表現の可能性を広げられるのかという実験サンプルとして、これまでもアジア各地や東欧など、世界の様々な場所で公演を続けてきました。公演中に使用している照明機材は、床置き20灯と天井に吊った8灯のLED 照明のみ。そしてそれらの照明の操作は1台のノートブックPCで、また音響もノートブックで操作されており、それらが同期して動くという点でも機材の革新性を追求しています。

dumb type 藤本隆行

